

一般財団法人甲南会 甲南病院

2010年4月、新人看護職員卒後臨床研修の「努力義務化」が施行された。神戸市東灘区の甲南病院では、医療安全の確保のため、輸液セットやシリンジの扱いにおける失敗事例を模擬的に学ぶ体験型・医療安全研修を実施。臨床研修医も参加した同研修の内容と効果について紹介する。

院内で使用する汎用医療機器にひそむ リスクを理解し正しい使い方を習得する 新人看護師対象の体験型・医療安全研修を実施

汎用医療機器に触れることで 正しい使用方法を理解する

2014年4月8日、甲南病院看護部は新卒看護師研修を実施し、その一貫としてT-PASを採用した。T-PASとは、シリンジや輸液セットといった汎用医療機器などによる事故を防ぐために、添付文書に記載された注意事項のうち、発生する頻度や危険度が高いものを体験して理解する教育プログラムである*。

当日は、新卒看護師30名に加え、6名の臨床研修医が参加し、①血液バッグの破損、②チューブの血液漏れ、③シリンジポンプのサイフォニング現象などについて体験学習が行われた。

医療安全対策室看護師長の藤田恵美さ

人は、予測・予防型の体験研修であるT-PASを企画した理由について、「輸血セットやシリンジなど院内で使用している医療機器を新卒看護師が安全に使用するためには、触ってはじめて正しい使用方法を理解できると思ったからです。私自身が新人のころにはこういった機会はなかったですし、いまの新人には基本的なことから学んでほしいという思いもありました」と言う。

甲南病院では昨年度、輸血セットを刺し間違えて血液バッグを破損したというインシデントが発生した。

「患者にできるだけ早く血液を提供するためにも、また血液バッグなどを準備した他部署のスタッフのためにも、破損というインシデントを防ぐことが大切だということを学んでほしいという気持ちも

ありました」と藤田さん。

東3階病棟(整形外科病棟)主任看護師でセーフティマネジャーの野口ひさみさんも、「実際、私の病棟で昨年、新卒看護師によって血液バッグを破損してしまうというインシデントが発生したので、何とかしたいと思っていました。刺入位置が浅すぎると隙間ができて血液が漏れ出ることもあるし、血液バッグの排出口が折れ曲がった状態で無理に刺すとバッグ本体が傷ついてしまうのです。こういったことを実際に体験できるT-PASは、とてもいい研修だと思いました」と言う。

野口さんは当初「どうしてこんな単純な失敗をするんだろう」と感じていたそうだが、今回のT-PASを見学して「触ったことのないものをはじめて操作する新人にとっては無理のないこと」と実感したという。

実際に体験に参加した新卒看護師の水田未幸さんは、「実際に血液バッグを破損してみました。どうしたら破損するのかを理解できたので、バッグを平行に置いて輸血セットをしっかりと刺したいと思いました」と言う。藤本ありささんも、「刺すことに集中してしまうと破損することがあることを体験できました。自分が感染源にな

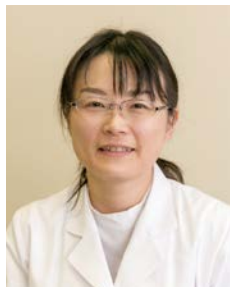


医療安全対策室看護師長の藤田恵美さん。「昨年に発生した血液バッグの破損というインシデントを研修で体験できたことは、今後の医療安全教育にも活かしていけると実感しています」と話す



東3階病棟主任看護師でセーフティマネジャーの野口ひさみさん。「新人教育も担当しているので、新卒看護師が安心して病棟で働くためにも、今回の研修はよかったと思っています」と話す

*T-PAS研修の詳細については、テルモ株式会社にお問い合わせください



中央検査部主任で輸血療法委員の間柴祐子さん。「看護部が取り組んでいる医療安全について知ることができました。輸血が終了するまでのすべての過程でかかわっていきたいと思います」と話す



T-PAS研修に参加した新卒看護師の水田未幸さん(右)と藤本ありささん(左)

ってしまうことも改めて学ぶことができたので、そのあたりを意識して取り組んでいきたいと思います」と話した。

また、「実際に使ったことのない段階で使用方法を確認できてよかった」「実際に体験できて記憶に残った」「失敗例を経験することで今後の安全意識が高まった」という感想も聞かれた。

看護部のみでなく 多職種と連携した安全教育も実施

当日は、臨床検査技師の間柴祐子さんもT-PASを見学した。間柴さんは、中央

検査部主任で輸血療法委員会の委員でもある。

「たまたま血液バッグの破損が続いて起こったので、新卒看護師研修で体験できたことはよかったと思います。参加者が楽しそうに学べるというのも魅力を感じました。私たちは血液製剤を出すまでの取り扱いにはシビアにやっていますが、その後の病棟での扱い方などは知りませんでした。検査部門と診療部門がお互いに安全について確認できたことも有意義でした。今後は、すべての過程で医療安全にかかわっていきたいと思います」と間柴さんは話す。

藤田さんは、「臨床研修医も、院内で使用している医療機器についてははじめて触るものであり、正しい使用方法を体験する環境を提供することが必要だと思いました。医師として働き始めれば実際に扱うことは少ないかもしれませんが、臨床現場にこういったリスクがあるのかを知っておくことは医療安全やチーム医療の基本だと思います」と言う。

そのような院内の方針を反映し、今回のT-PASには6名の臨床研修医も参加した。臨床研修医の鞘津匡宏さんは、「こういった手技によって失敗するのかということが体験できて、とても助かりました。

●甲南病院で行われたT-PAS研修の主な内容

- ①血液バッグの破損
- ②チューブの血液漏れ
- ③シリンジポンプのサイフォン現象について



血液バッグの破損を模擬的に体験。感染の可能性や予定輸血量の未投与というリスクを学んだ



シリンジの間違った取り扱いを模擬的に体験。シリンジに問題がある状態でシリンジポンプにセットすると、ポンプは正常に稼働しアラームは鳴らないが、サイフォン現象が発生し、薬液が急速投与されるというリスクを学んだ



臨床研修医の靫田匡宏さん(右)と阪原有美さん(左)もT-PAS研修に参加した



一般財団法人甲南会 甲南病院
〒658-0064
神戸市東灘区鴨子ヶ原 1-5-16
TEL 078-851-2161
www.kohnan.or.jp
看護配置：7対1(固定チームナースィング、2交替制)

講義で聞くよりも実際にやってみたことで、より理解できました」と話す。

阪原有美さんも、「シリンジを使ったことも初めてだったので、正しく使わなければいけないことがわかりました。正しい使い方をしなければミスしたときもポンプのアラームが鳴らないことがあることが理解できたので、自分の目できちんと確認しなければいけないと思いました」と言う。

“基本的な手技を見直す体験研修”が今後の課題

参加者の感想のなかには「添付文書の認

識が改めて重要と感じた」というものも多く、その理由は「注意事項などは危険を予防することにつながる」などだった。藤田さんは今後、新卒看護師研修にかぎらず、すでに病棟で働いている看護師も対象としたT-PASを企画したいという。

「昨年の血液バッグ破損のインシデントも、頻繁に輸血を行う部署ではない病棟で発生したので、めったに使用することのないベテラン看護師が失敗してしまう可能性もあります。久しぶりに操作するという場面でのインシデントも少なくないので、院内で使用する医療機器の正しい使い方の習得とリスクの把握が必要です。また、看護師以外のすべてのスタッ

フにも、医療安全の土台づくりとして、こういった研修をはじめとした教育に力を入れていきたいと思います」

今回、はじめて新卒看護師研修にT-PASを採用した甲南病院。今後もさらに、医療安全文化の醸成のための活動を継続していくという。



なお、T-PASを提供するテルモ株式会社では、輸液の安全を担保する「スマートインフュージョンシステム」や、がん化学療法で用いる閉鎖式混合調整器具「ケモセーフ」など、さまざまなシステムを提供している。

新卒看護師があえて“失敗”を体験することが効果的です

看護部長 立部巴さん



看護師は手技を実際に体験することで、「成功すれば失敗もする」ことを自ら学ぶことが大切です。

今回の研修では、思わぬ動作によって医療機器が壊れたり不潔になることで患者さんに迷惑をかけることを実感することができてよかったと思っています。以前のオリエンテーションは、「講義を聞いてもほとんど理解できていなかった」というのが実状だったので、失敗を体験することのできるT-PASは研修の効果が高いと思います。

とくに輸血の場合、たまにしか実施しない部署もありますから、事故が起こる頻度は少なくとも可能性は高くなります。したがって、まだ何も経験していない新卒看護師に体験してもらったことはとても有意義だったと思います。

これからも、臨床現場の看護師が自信をもって働けるように、体験型の医療安全研修を取り入れていきたいと思っています。

実際の手技は若いうちに経験しておくことが重要です

院長 小倉純氏



臨床経験がまったくない看護師や医師が、実際にさまざまな医療機器に触れてみることは今後の糧になると思います。とくに、実体験をして実際の診療に臨んでいくことにT-PASの意義があると感じましたし、今回の学びは病棟での診療に活かせると実感しました。

今回は臨床研修医にも参加してもらいました。というのは、近年、医師と看護師の分業が進んだことで医師は輸血や静脈注射などの作業にかかわることはなくなりましたが、看護師が行う業務を医師が理解していないと一人前とはいえないと思うのです。とくに実際の手技は若いうちに経験しておくことが大切なので、今回の研修に参加してもらったことは有意義だったと思います。

今後も、さまざまな職種のスタッフが体験型の研修に参加できるよう、医療安全対策室や看護部と協力して実施していきたいと思っています。